

1. 単元名 竹園のまちのたからもの

～「まつりつくば」は、どんな人の、どのような思いで行われているのだろうか～

2. 単元の目標

- 「まつりつくば」は多様な立場の人の思いをつなぐために、様々な立場の方々が協力して運営していることを理解し、自分たちのまつりに生かそうとすることができる。 (知識及び技能)
- 地域や学校の交流を深めるためたり、まつりに関わる方々の思いを伝えたりする方法を考えることができる。 (思考力・判断力・表現力)
- 自分も地域や学校の一員であることを自覚し、仲間と協働しながらまわりの人を笑顔にしたり、交流を深めたりする活動を行うことができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、地域のまつり「まつりつくば」を教材として取り上げる。

「まつりつくば」は、2日間で40万人以上が来場するつくば市最大の夏祭りである。「自然・歴史・科学があふれる国際都市つくばで、まちとひとが一体となって未来をつくる」ことをコンセプトに、会場では演奏やダンス、マジックなどが催されるほか、メインパレードでは、まつりつくばオリジナルのねぶたがねり歩く。様々な企業や団体の協力のもと、多様な文化が取り入れられた多彩なイベントが行われる「ごった煮」のまつりである。

学校から徒歩圏内で行われる身近なまつりではあるが、「誰が」「どのような思いで」行っている知らない児童が多いと考えられる。もともとは地域住民のアクションから生まれた小さなまつりで、規模が大きくなった今でも「人と人をつなげる、交流を深める」という思いは当時と変わらずに受け継がれている。

児童が、様々な立場の人たちみんながつながりあって生きることの良さを実感したり、自分からまつりのように自分の住むまちや学校をよりよくするためのアクションを起こしたりするには適した教材だと考える。

(2) 児童観

本学級の児童は、つくばスタイル科で、自分たちの住む「まちのたからもの」を発見する学習をしてきた。学区が50年ほど前にできた市街地にあることから、当初は「マンション」「公園」などの(場所)に着目する児童がほとんどであった。そこで地域に江戸時代から残る「倉掛千現塚」を教材として取り上げることで、児童は受け継いできた「ひと」にも「たからもの」としての価値があると気づきを得た。本単元では「まつり」を取り上げることで、身近に行われている「こと」の中にある価値に気付けるようにしていきたい。

(3) 指導観

児童が主体的に学習活動を進めていくために、「①自分が知りたいことを追究する時間を確保する」「②様々な方々から直接思いを聞き、考える」という2つの活動を大切にしたい。

まず、「まつりつくば」で使われたねぶたを見て交流することから学習を展開したい。まつりの象徴である本物のねぶたの迫力を実感するとともに、「どうしてねぶたをまつりで使うのだろうか」という問

いを見出しから引き出すことができると考える。調査活動は児童の興味関心に沿って知りたいことを調べる時間を十分に確保し、主体性を高めたい。「調査する→出し合う」ことを複数回繰り返す中で、まつりに込められた「すべての人を楽しませ、交流を深めたい」という思いに気付けるようにしたい。

次に「まつりつくば」のポスターとパンフレットから、さらに多くの催しが行われており、そこに関わる方々がどんな思いでまつりを行っているかに着目できるようにする。実感を伴って学習を進めていくために、児童がまつりに関わる方に出会って、活動内容や思いを直接聞かせていただくことを大切にしたい。今回は「まつりに関わる企業の方」「まつりを主催する方」「まつりが行われる以前から知っている方」という異なる立場の方々をゲストティーチャーとしてお招きする。様々な視点からまつりを捉えることで、児童はより深くまつりに込められた思いについて考えることができるであろう。そして、これまで出会った方々の話を整理しながら、全ての方々が「参加した人全員に楽しんでほしい」「人たちの交流を深めたい」という共通の思いをもっていることに気付けるようにしたい。

最後に、学校やまちを「みんなが楽しく生活できているか」「交流を深めることができているか」という視点で見つめなおし、よりよい学校やまちにするために自分にできることを考えられるようにしたい。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

相互性・・・いろいろな立場の人たちが互いの思いに寄り添いながらつながり、協力し合うことで、すごいエネルギーを生むことができる。

連携性・・・小さな行動も思い切って始めて、続けることで仲間が増え、やがて大きな力に繋がっていく。

責任性・・・自分の所属するコミュニティ（学校・まち）をよりよくしていくためには、自分からアクションを起こさなくてはならない。

・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）

「まつりつくば」に関わる様々な立場の方の思いを整理し、全ての方に共通する思いを見出すことができる。

つながりを尊重する態度

つくばを楽しく盛り上げ人々の交流を深めようとする方々との関わりを通して、様々な人がつながりあうことのよさを大切にしようとする。

進んで参加する態度

自分もまちや学校の一員であることを自覚し、よりよくするための方法を「まつりつくば」から学んだこととつなげて考えることができる。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

世代内の公正

学校やまちをよりよくしていくためには、多様な立場の人たちみんながつながり合って生活することが大切である。

世代間の公正

「まつりつくば」に当初から受け継がれてきた思いを知り、自分もその思いを受け継ごうとする。

幸福感に敏感になる、幸福感を重視する

様々な立場の人が、互いの思いに寄り添い合いながらつながりあって生きることは、幸せなことである。

・達成が期待される SDGs

1 1 住み続けられるまちづくりを

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>①「まつりつくば」はまつりに関わる全ての人を楽しくさせ、交流を深めるために行われていることを理解している。</p> <p>②学んだり、調べたりして得た知識を、それぞれの共通点に着目して整理することができている。</p>	<p>①資料をもとに話し合う活動を通して自ら問題を見出し、解決するための方法を考えている。</p> <p>②「まつりつくば」に関わる人々の思いとつなげながら、よりよい学校やまちにするための方法を考えている。</p>	<p>①仲間と協働して調査活動をしたり話し合ったりしながら、問題の答えに迫ろうとしている。</p> <p>②ゲストティーチャーの方々の話から「まつりつくば」について理解を深めようとしている。</p> <p>③コミュニティの一員として、学校やまちをよりよくするための活動に参加しようとしている。</p>

5. 単元の指導計画（全25時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△）
1	<p>1 「まつりつくば」で使われたねぶたを見て交流し、『「まつりつくば」では、どうしてねぶたがパレードするのだろうか。』を考える。</p> <p>2 問題を明らかにするための調査活動と、話し合いをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まつりに来たすべての人に楽しんでもらうためにしている。 ・昔のつくばは交流が少なかったらしい。ねぶたが大きくなっていったのは交流をもっと深めたかったからかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本物のねぶたを見ることで迫力やよさを実感し、児童の興味を高められるようにする。 ・児童の興味関心に沿って調査する時間を十分に確保する。 ・「まつりつくば」の変遷が分かる年表と写真を提示し、ねぶたやまつりが大きくなっていく様子に気付けるようにする。 ・話し合いの中で、児童が自ら問題の答えに迫れるように支える。 	<p>△イ① （思判表）</p> <p>△ア① （知・技）</p> <p>△ウ① （主体的）</p>
2	<p>3 「まつりつくば」のポスターとパンフレットから気づいたことを交流し、『「まつりつくば」どんな人のどのような思いでおこなわれているのか』を考える。</p> <p>4 「まつりつくば」に関わる企業の方の話聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つくばの「ごった煮」をポスターで表現したんだね。 ・企業の方も、つくばをもりあげようとがんばっているんだね。 <p>5 「まつりつくば」を主催する方のお話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「知っている」ことと「知らない」ことに分類する中で、様々な立場の方々がまつりに関わっていることに気付けるようにする。 ・GTのお話を聞いて『「まつりつくば」どんな人のどのような思いでおこなわれているのか』について「わかったこと」と、自分が「考えたこと」をワークシートに整理しながら振り返りをする。 	<p>△イ① （思判表）</p> <p>△ア② （知・技）</p> <p>△ウ② （主体的）</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来た人みんなに楽しんでもらうために、いろいろな人たちをつなぐ役割をしてくれていたんだね。 ・ 場所取りやゴミ問題への取り組みなどの仕事は知らなかったな。 <p>6 「まつりつくば」が始まる以前から地域にお住いの方の話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前から住む人と、新しく来た人の交流を深めるために学校のおまつりができて、同じ思いで「まつりつくば」も始まったんだね。 ・ 「今のまちになって良かったけど、人と人が疎遠になった」とも言っていたよ。 <p>7 問題の答えについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まつりに関わる人はみんな「来た人みんなに楽しんでもほしい」「いろいろな人の交流を深めたい」という思いをもっていたよ。 ・ 交流を深めるためにがんばってきたのに、疎遠だと感じる人がいるのは悲しいことだね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ゴミがたくさん出ることが問題になっている」「以前はみんな顔見知りだったが、今は疎遠なまちになったと感じる」など、問題点から考えたこともふり返るように促す。 ・ G Tの方々の話の共通点に着目して話し合い、児童が自ら問題の答えに気付けるように支える。 	<p>△ア② (知・技) △ウ① (主体的)</p>
3	<p>8 「みんなが楽しめる」「交流を深める」という視点から、自分の学校を見つめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全校生がいっしょに楽しめる行事が少ないな。 ・ 自分にもできることはないかな。 ・ <p>9 交流を深めるために「ぼかぼかまつり」を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ だれでも楽しめるように、いろいろな遊びを考えよう。 ・ 「まつりつくば」に関わった人の思いや、このまちで大切にされてきたものやことも伝えていきたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの学校生活や行事を想起させ、いいところと改善点を整理しながら、自分たちにできることはないか考えることができるように支える。 ・ 「自分のまちについて学んできたことを発信する」「みんなを楽しませながら交流を深める」という2点を大切に、相手意識と目的意識をもって活動できるように支援する。 	<p>△イ② (思判表)</p> <p>△ウ③ (主体的)</p>